

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第4902108号
(P4902108)

(45) 発行日 平成24年3月21日 (2012. 3. 21)

(24) 登録日 平成24年1月13日 (2012. 1. 13)

(51) Int. Cl.	F I
G 0 6 F 3/048 (2006.01)	G O 6 F 3/048 6 5 1 A
G 0 6 F 3/14 (2006.01)	G O 6 F 3/14 3 1 0 A

請求項の数 15 外国語出願 (全 10 頁)

(21) 出願番号	特願2004-260662 (P2004-260662)	(73) 特許権者	300015447
(22) 出願日	平成16年9月8日 (2004. 9. 8)		エスアーバー アーゲー
(65) 公開番号	特開2005-115929 (P2005-115929A)		S A P A G
(43) 公開日	平成17年4月28日 (2005. 4. 28)		ドイツ連邦共和国, 6 9 1 9 0 バルドル
審査請求日	平成19年4月4日 (2007. 4. 4)		フ, ディートマルーホップーアレー 1 6
(31) 優先権主張番号	03077834. 4		D i e t m a r - H o p p - A l l e e
(32) 優先日	平成15年9月8日 (2003. 9. 8)		1 6, 6 9 1 9 0 W a l l d o r f,
(33) 優先権主張国	欧州特許庁 (EP)		G e r m a n y
(31) 優先権主張番号	03078924. 2	(74) 代理人	100108453
(32) 優先日	平成15年12月11日 (2003. 12. 11)		弁理士 村山 靖彦
(33) 優先権主張国	欧州特許庁 (EP)	(74) 代理人	100064908
			弁理士 志賀 正武
		(74) 代理人	100089037
			弁理士 渡邊 隆

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 ユーザのデータ処理を支援する方法、コンピュータシステム、クライアントシステム、コンピュータプログラム及びその記憶媒体

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ユーザインタフェース (100) を備え、複数の人を有する組織のリソースシステムを処理するコンピュータシステムが、ユーザに、

複数のプログラム (200、210) のそれぞれから受信したデータを提供し、前記ユーザと、前記複数のプログラムのそれぞれとの相互作用を可能にすることにより、ユーザの前記データの処理を支援する方法であって、

前記データは、前記ユーザの現在若しくは将来処理すべき、プロジェクト若しくはタスクの遂行に関連する認知情報タイプのデータであって、

受け取ったデータの内容を、認知情報タイプのカテゴリに属する複数のデータカテゴリのそれぞれのカテゴリに対応させて分解または編成することにより分類して、カテゴリライズドデータを得る分類ステップと、

それぞれの前記プログラムから得られた前記カテゴリライズドデータを複数の前記プログラム分マージしてマージドデータを得るマージステップと、

前記カテゴリライズドデータまたは前記マージドデータを前記ユーザインタフェース (100) に表示するステップと、

を備え、

前記認知情報タイプのカテゴリは、前記ユーザが開始しなければならない特定のタスクを含むデータ、または応答しなければならないデータを含む作業トリガカテゴリ、進行中のタスクおよびプロセスのステータスに関連するデータを含む追跡可能オブジェクトカテ

10

20

ゴリ、特定の時に発生するイベントに関連するデータを含む時間ベースのイベントカテゴリの少なくともいずれか一つを含み、

前記ユーザインタフェース（１００）は、複数のサブインタフェース（１０１、１０２、１０３）を備え、

前記マージドデータは、前記サブインタフェース内で表示されるものであって、

前記サブインタフェースの表示パターンは、前記ユーザによりパーソナライズ可能に構成されており、

前記方法は、さらに、

前記カテゴリ化データまたは前記マージドデータの表示にตอบสนองして、前記ユーザによりデータ入力が行われ、前記複数のプログラムに含まれる特定のプログラムに送信する送信ステップを備える方法。

10

【請求項２】

前記コンピュータシステムは、前記作業トリガカテゴリに関するデータ、前記追跡可能オブジェクトカテゴリに関するデータ、前記時間ベースのイベントカテゴリに関するデータの少なくともいずれか一つに関して前記コンピュータプログラム（２００、２１０）がそれらのプログラムのオブジェクトを登録可能な中央リポジトリを備え、

前記中央リポジトリに保存されている前記オブジェクトに関するデータを前記ユーザインタフェースにおいて表示するためのユーザインタフェースパターンを備える、

請求項１に記載の方法。

【請求項３】

20

前記カテゴリはトリガカテゴリであり、

前記トリガカテゴリは、特定のタスクをユーザが開始しなければならない応答中のデータである第１データと、コンピュータシステムによる特定の手順を起動するためにユーザが応答しなければならないデータである第２データの少なくともいずれかを含み、

前記マージドデータは前記第１、第２データの少なくともいずれかを含む、請求項１または２に記載の方法。

【請求項４】

前記カテゴリは、追跡可能オブジェクトカテゴリであり、

前記追跡可能オブジェクトカテゴリは、プロセスの現在の段階、または、進行中のタスク及びプロセスのステータスに関するデータなどの進行中の作業に関する情報を表すデータを含み、

前記マージドデータは、前記進行中の作業に関するデータを含む、請求項１または２に記載の方法。

30

【請求項５】

前記カテゴリは、時間ベースイベントカテゴリであり、

前記時間ベースイベントカテゴリは、前記複数のプログラムからの時間ベースイベントデータを含み、

前記マージドデータは、前記時間ベースイベントを含む、請求項１または２に記載の方法。

【請求項６】

40

前記マージドデータに加えて、さらに、異なるサブインタフェースからのデータを、特定のサブインタフェースに挿入することの特徴とする請求項１、３から５のいずれかに記載の方法。

【請求項７】

前記カテゴリ化データに、データの発信元についてのデータを付加して前記ユーザインタフェースに送付し、表示するステップをさらに含む、請求項１から６のいずれかに記載の方法。

【請求項８】

複数の人を有する組織のリソースシステムを処理するコンピュータシステム（１）であって、

50

少なくとも2つのコンピュータプログラム（200、210）を実行するように構成された1つまたは複数のプロセッサ装置と、

前記少なくとも2つのコンピュータプログラム（200、210）から発信されたデータを、少なくとも2つのデータカテゴリに分類するための分類装置（300、310、320）と、

前記1つまたは複数のプロセッサ装置および前記分類装置（300、310、320）に通信接続されたユーザインタフェース（100）と、を備え、

前記ユーザインタフェース（100）は、

少なくとも2つのコンピュータプログラム（200、210）からの、1つのカテゴリに分類されたデータを一緒に、かつ、他のカテゴリに分類されたデータからは分離して表示するようにそれぞれが構成された、少なくとも2つのサブインタフェース（101、102、103）を備え、

前記コンピュータシステムは、さらに、

パーソナライズ可能なデータベースと、

前記ユーザインタフェースを介した前記ユーザからの入力を前記コンピュータプログラムの少なくともいずれかに送信する手段と、を備え、

前記分類装置は、認知情報タイプのカテゴリに属する複数のデータカテゴリのそれぞれのカテゴリに対応させてその内容を分解または編成することにより分類して、少なくとも2つのデータカテゴリに分類するための分類装置であって、

前記データは、前記ユーザの現在若しくは将来処理すべき、プロジェクト若しくはタスクの遂行に関連する認知情報タイプのデータであり、

前記認知情報タイプのカテゴリは、前記ユーザが開始しなければならない特定のタスクを含むデータ、または応答しなければならないデータを含む作業トリガカテゴリ、進行中のタスクおよびプロセスのステータスに関連するデータを含む追跡可能オブジェクトカテゴリ、特定の時に発生するイベントに関連するデータを含む時間ベースのイベントカテゴリの少なくともいずれか一つを含むことを特徴とするコンピュータシステム。

【請求項9】

前記作業トリガカテゴリに関するデータ、前記追跡可能オブジェクトカテゴリに関するデータ、前記時間ベースのイベントカテゴリに関するデータの少なくともいずれか一つに関して前記コンピュータプログラム（200、210）がそれらのプログラムのオブジェクトを登録可能な中央リポジトリを備え、

前記中央リポジトリに保存されている前記オブジェクトに関するデータを前記ユーザインタフェースにおいて表示するためのユーザインタフェースパターンを備える、請求項8に記載のコンピュータシステム。

【請求項10】

前記ユーザインタフェース及び前記サブインタフェースにおける表示手段は、パーソナライズ可能に構成されており、

前記マージドデータに加えて、さらに、異なるサブインタフェースからのデータを、特定のサブインタフェースに挿入する手段を備えることを特徴とする請求項8または9に記載のコンピュータシステム。

【請求項11】

前記カテゴリ化ドデータに、データの発信元についてのデータを付加して前記ユーザインタフェースに送付し、表示する手段をさらに含む、請求項8または9に記載のコンピュータシステム。

【請求項12】

ユーザインタフェース（100）が存在するクライアントシステムと、前記クライアントシステムに通信接続された少なくとも1つのサーバシステムとを備え、前記サーバシステムは、前記コンピュータプログラム（200、210）のうちの少なくとも1つを実行するように構成されていることを特徴とする、請求項8から11のいずれかに記載のコンピュータシステム。

10

20

30

40

50

【請求項 1 3】

複数の人を有する組織のリソースシステムを処理するクライアントシステムであって、少なくとも2つの実行中のコンピュータプログラム（200、210）からのデータを受信するために、少なくとも1つのサーバシステムに通信接続することが可能な、ユーザインタフェース（100）を備え、

前記データは認知情報タイプのカテゴリに属するデータであって、少なくとも2つのカテゴリに分類され、

前記ユーザインタフェースを介した前記ユーザからの入力を前記コンピュータプログラムの少なくともいずれかに送信する手段と、

前記ユーザインタフェース（100）のパーソナライズを可能にする手段と、を備え、

前記ユーザインタフェース（100）は、

少なくとも2つのコンピュータプログラム（200、210）からの、1つのカテゴリに分類されたデータを一緒に、かつ、他のカテゴリに分類されたデータからは分離して表示するようにそれぞれが構成された、少なくとも2つのサブインタフェース（101、102、103）を更に備え、

前記データは、前記ユーザの現在若しくは将来処理すべき、プロジェクト若しくはタスクの遂行に関連する認知情報タイプのデータであり、

前記認知情報タイプのカテゴリは、前記ユーザが開始しなければならない特定のタスクを含むデータ、または応答しなければならないデータを含む作業トリガカテゴリ、進行中のタスクおよびプロセスのステータスに関連するデータを含む追跡可能オブジェクトカテゴリ、特定の時に発生するイベントに関連するデータを含む時間ベースのイベントカテゴリの少なくともいずれか一つを含むことを特徴とするクライアントシステム。

【請求項 1 4】

プログラム可能な装置上で実行される場合に、請求項 1 から 7 のいずれかに記載の方法のステップを実行するための、プログラムコード部分を備えたコンピュータプログラム。

【請求項 1 5】

請求項 1 4 に記載のコンピュータプログラムを記憶した、コンピュータで使用可能な記憶媒体。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、コンピュータシステム内でデータを出力する方法に関する。本発明は、さらに、コンピュータシステムおよびクライアントシステムに関する。本発明は、また、コンピュータプログラム製造物および製品に関する。

【背景技術】

【0002】

コンピュータシステム上では、複数のアプリケーションまたはコンピュータプログラムが同時に実行される場合がある。それらの実行中のプログラム（の一部）は、ユーザインタフェースにおいてユーザに同時に示されることが知られている。例えば、ウィンドウズ（Windows（登録商標））オペレーティングシステム内で、さまざまなプログラムが実行中の場合、各プログラムについて独立したウィンドウが、グラフィカルユーザインタフェース（GUI）において存在し、前記ウィンドウ内でそれぞれのプログラムの一部が表示される。したがって、ユーザは、単一のユーザインタフェースにおいて複数のプログラムを同時に知覚することができる。

【0003】

また、企業リソースシステムを実行するコンピュータシステムについては、役割ベースの統合プラットフォームが知られている。役割ベースの統合プラットフォームでは、同時に実行されているさまざまなプログラムからの情報が、ユーザインタフェースにおいてユーザに提示されるが、提示される情報は、企業内でのユーザの役割に関連する情報に限定されている。したがって、ユーザに関連する情報のみが提示され、重複が少ない情報が提

10

20

30

40

50

示される。

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

しかし、これらの既知の方法およびシステムの欠点は、ユーザインタフェースにおいて、依然としてプログラムが分離して表されるということである。したがって、ユーザは、各プログラムからの情報を別々に取り入れてから、さまざまなプログラムからの情報をマージしなければならない。役割ベースの統合プラットフォームでは、ユーザは、自分の役割に関連した情報のみを受け取るが、情報はさまざまなプログラムで表されているため、特に、自分の役割、作業のステータス、および次の行動の決定を理解するのは困難である。したがって、既知のシステムおよび方法は、使いやすさの程度が低いものである。

10

【課題を解決するための手段】

【0005】

本発明の目的は、コンピュータシステム内でデータを出力するための、使いやすさが向上した方法を提供することである。そのために、本発明では、請求項1に記載の方法を提供する。

【0006】

かかる方法では、さまざまなプログラムからの、同じデータカテゴリに分類された情報が一緒に提示されるため、使いやすさが向上する。したがって、ユーザは、さまざまなプログラムからのデータを処理して、情報を統合する必要はない。それにより、使いやすさが向上する。

20

【0007】

さらに、本発明は、請求項8に記載のコンピュータシステムを提供する。本発明は、また、請求項10に記載のクライアントシステムを提供する。本発明は、また、請求項11に記載のコンピュータプログラム製造物、および請求項12に記載の製品を提供する。

【0008】

本発明の特定の実施形態は、従属請求項に記載されている。本発明のさらなる詳細、態様、および実施形態を、あくまでも例として、図面を参照して以下に説明する。

【発明を実施するための最良の形態】

【0009】

30

図1のコンピュータシステム1の例は、人が認知できる形態で情報を出力することが可能な、ユーザインタフェース(UI)100を具備している。このUIにおいては、例えば、コンピュータシステム1で実行中のコンピュータプログラム(の部分)が、例えば、音声、グラフィックス、またはその他の方法で表されることが可能である。本例では、UIは、表示装置においてグラフィカルユーザインタフェース(GUI)を備えていると想定されている。ただし、UIは、他のタイプのインタフェースを同様に備えていてもよい。

【0010】

コンピュータシステム1では、コンピュータプログラム'xAPP'200、210が実行されている。図1に示す例では、2つのコンピュータアプリケーションまたはコンピュータプログラム200、210が、コンピュータシステム1上で実行されている。ただし、異なる数のプログラムが、同様に実行されていてもよい。さらに、それらのコンピュータプログラムは、単一のプロセッサ上で同時に実行されていてもよく、また、別々のプロセッサ上で同様に実行されていてもよい。

40

【0011】

コンピュータシステム1は、デスクトップコンピュータや携帯情報端末(PDA)などの、単一のコンピュータ装置のような、適切なプログラマブルデバイスを備えていてもよい。ただし、コンピュータシステム1は、同様に、データ通信ネットワークにより接続された2つ以上の独立したコンピュータ装置を備えていてもよい。その場合、コンピュータプログラム200、210は、例えば、ユーザインタフェース100を備えたクライアン

50

トコンピュータに通信接続された、独立したサーバ装置上で実行されていてもよい。

【0012】

本例では、ユーザインタフェース100において、例えばWebブラウザプログラムが、Webブラウザユーザインタフェースとしてグラフィカルに表示されてもよく、前記Webブラウザプログラムは、ドイツ、ヴァルドルフ市のSAP 株式会社（SAP A. G. (Waldorf, Germany)）により販売されているようなコンピュータ化企業管理システムの、プログラム、データ、サービスなどのリソースへのアクセスを可能にするものである。その場合、サブインタフェース101～103が、例えばデータフィールド、テーブル、またはその他として、Webブラウザユーザインタフェース内に表示されてもよい。

10

【0013】

図1の例では、コンピュータプログラム200、210は、分類装置300、310、320を介してコンピュータプログラム200、210と通信接続されている。コンピュータプログラム200、210は、UI100にデータを出力すること、およびUIからデータを受信することが可能である。GUI100は、コンピュータプログラム200、210により生成されたデータが出力されるサブインタフェース100～103を備えている。

【0014】

図1の矢印で示されているように、コンピュータプログラム200、210により生成されたデータは、コンピュータプログラム200、210からユーザインタフェース100に、分類装置300、310、320を介して送信される。分類装置300、310、320は、プログラム200、210からのデータを分解または編成して、さまざまなカテゴリ（本例では、認知情報タイプのカテゴリ）に分類する。図1の例では、分類装置300、310、320のそれぞれは、サブインタフェース101、102、103のうちの異なる1つに接続されている。分類装置300、310、320のそれぞれは、いずれかのカテゴリに分類されたデータを、それらの分類装置に接続されたサブインタフェースに送信する。

20

【0015】

したがって、各サブインタフェース101～103では、異なるコンピュータプログラムから発信され、同じカテゴリに分類されたデータが表される。それにより、コンピュータシステム上で複数のプログラムが実行されていながら、ユーザには、さまざまなプログラムからの関連する情報が単一のユーザインタフェースで示されるようになるため、使いやすさが向上する。

30

【0016】

さらに、コンピュータプログラムからのデータは分類されているため、ユーザインタフェースと対話を行っているコンピュータプログラムを簡単な方法で変更することが可能である。したがって、例えば、ユーザインタフェースを適合させる必要なしに、他のコンピュータプログラムを追加することができる。その理由は、コンピュータプログラムからのデータは分類されており、そのデータカテゴリは、ユーザインタフェース内にサブインタフェースをすでに有しているためである。

40

【0017】

図1の例では、2組の類似した分類装置が存在しており、プログラム200、210のそれぞれが異なる分類装置の組に接続されている。プログラム200、210からのデータストリームは、分類装置の組のうちの1つによって、別個に分類される。コンピュータプログラム200、210からの、同じカテゴリに分類されたデータストリームは、ユーザインタフェースにおいてマージされ、データを生成した特定のコンピュータプログラムについての情報は、したがって、ユーザインタフェースにおいて取得することができる。ただし、コンピュータプログラムは、同様に、同じ分類装置の組を使用してもよい。そのような場合、データの発信元についての情報がユーザインタフェースで必要とされるならば、データの発信元についてのデータを、分類されたデータに付加することができる。

50

【0018】

データの発信元についての情報は、ユーザインタフェースにおいて存在しているため、コンピュータシステム1内で追加の機能が実装されてもよい。例えば、ユーザと、個々のコンピュータプログラムとの間の対話が可能である。したがって、ユーザインタフェースにおけるデータの表示にตอบสนองして、ユーザインタフェースにおいて、例えばデータが入力され、特定のコンピュータプログラムに送信されることが可能である。ただし、前記情報を利用するその他の機能が、同様に使用されてもよい。

【0019】

分類装置300、310、320は、例えば、データを分類するためにプログラム200、210によって使用されることが可能な、リソースのフレームワークとして実装されてもよい。例えば、前記フレームワークは、オブジェクトクラス、パーソナライズされたリポジトリ、UIパターン、またはその他のリソースが保存されたメモリを備えていてもよく、前記メモリは、所望のカテゴリのデータを提供するため、および適切なサブインタフェース101～103にデータを伝送するために、プログラム200、210によってアクセスおよび使用されることが可能である。

10

【0020】

データのタイプによって、前記フレームワーク内で利用可能なリソースは異なってもよい。例えばトリガ、追跡可能オブジェクト、時間ベースのイベントなどの、いくつかのタイプのデータに対しては、前記フレームワークは、例えば、コンピュータプログラム200、210がそれらのコンピュータプログラムのオブジェクトを登録することが可能な中央リポジトリを有するメモリを備えていてもよい。前記フレームワークは、さらに、配送メカニズム（ユニバーサルインボックス）や、リポジトリに保存されているオブジェクトに関するデータをUIにおいて表示するためのUIパターンを備えていてもよい。その他のタイプのデータに対しては、例えば、ユーザのすべてのアクティブな役割の中で照会を実行し、ユーザインタフェースにおいて、役割全体にわたる特定のタイプのサービスのページやリンクリストを動的に構築する、中央アプリケーションが提供されてもよい。

20

【0021】

図1の例は、企業リソースシステムの実装に特に適しているが、これに限定されない。分類装置300、310、320は、企業内での具体的な業務の内容やユーザの役割とは関係なく、人々が一般にどのように働いているかや、何が基本的な問題であるかなどの、認知元型的な情報クラスに対応するユーザ中心のカテゴリにデータを分類する。そのような認知元型的な情報クラスとしては、例えば、自分の仕事を観察および監視したいということ、ユーザによる行動を必要とするトリガが存在するということ、複雑なタスクがサブタスクおよびステップに細分されるということ、緊急度と関連性に基づいて次にすることを決定しなければならないということ、などがある。図1の例では、分類装置300、310、320がコンピュータプログラム200、210からのデータを、「作業トリガ」、「追跡可能オブジェクト」、および「時間ベースのイベント」というカテゴリに分割する。

30

【0022】

そのようなカテゴリ、および特に図1の例に示すカテゴリにより、データ間の区別が提供され（したがって、サブインタフェース101～103内でのそのデータの表示が可能となり）、そのデータがユーザにより迅速に処理されることが可能となり、それによりコンピュータシステム1の使いやすさが向上するということが見出された。

40

【0023】

作業トリガカテゴリは、例えば、新しい従業員の雇用、飛行機の予約、またはその他の、特定のタスクをユーザが開始しなければならない、応答中データを含む。作業トリガカテゴリのデータは、また、例えば、ハードディスクのクリーンアップや、その他の、コンピュータシステムによる特定の手順の実行を起動するためにユーザが応答しなければならないデータであってもよい。図1の例では、作業トリガカテゴリのデータは、サブインタフェース101「統合作業リスト」内で表される。

50

【0024】

したがって、さまざまなプログラムにより課されたすべての新しいタスクが、同じサブインタフェース内で表されるので、ユーザはすべての新しいタスクを容易に把握することができる。それにより、ユーザは、さまざまなプログラムに従って実行されるべきタスクを容易に決定できるようになる。任意選択で、ユーザは、例えば優先権を有するタスクを決定するために、他のサブインタフェースからの情報を使用してもよい。

【0025】

追跡可能オブジェクトカテゴリは、例えば、プロセスの現在の段階や、予算がまだ予想範囲内にあるかどうかなどの、進行中のタスクおよびプロセスのステータスに関連するデータを含む。追跡可能オブジェクトカテゴリのデータは、サブインタフェース102「進行中の作業の追跡」内で表される。

10

【0026】

したがって、さまざまなプログラムからの進行中のタスクおよびプロジェクトのステータスが、同じサブインタフェース内で表されるため、ユーザはさまざまなプロジェクトおよびタスク、またはその他の、ステータスの概要を入手することができる。それにより、ユーザは、さまざまなコンピュータプログラムにより処理されるプロジェクトまたはタスクのステータスについて、迅速に通知されることが可能になり、そして、例えば優先度を判定することが可能になる。

【0027】

時間ベースイベントカテゴリは、期限、アポイントメント、またはその他の、特定の時に発生するイベントに関連するデータを含む。時間ベースイベントカテゴリ内のデータは、サブインタフェース103「マイデイ(My Day)」内で表される。

20

【0028】

したがって、さまざまなプログラムからの時間ベースイベントが、同じサブインタフェース内で表されるため、ユーザは、自分に課されるさまざまな時間制限のステータスの、複雑でない概要を得ることができる。それにより、ユーザは、さまざまなプログラムからのイベント間の考えられる競合を容易に判別できるようになるため、プロセスのセキュリティも向上する。

【0029】

本明細書に記載した計算態様は、デジタル電子回路内に実装することも、コンピュータハードウェア、ファームウェア、ソフトウェア内に実装することも、それらの組み合わせにより実装することも可能である。適切な場合、これらのシステムおよび技術の態様は、プログラマブルプロセッサによる実行のために機械読み取り可能な記憶装置内に有形に実施された、コンピュータプログラム製造物内に実装することが可能であり、方法のステップは、入力データへの操作を行って出力を生成することにより機能を実行する、命令のプログラムを実行するプログラマブルプロセッサにより実行されることが可能である。

30

【0030】

また、本発明は、コンピュータ上で利用可能なリソースへのアクセスを提供するためのコンピュータ読み出し可能命令が内部で実施された、コンピュータで使用可能な媒体を有する製品内に実装されてもよい(ここで、前記コンピュータ読み出し可能命令は、本発明による方法の一部をコンピュータに実行させるための命令を含む)。また、本発明は、コンピュータシステム上で実行するためのコンピュータプログラムとして実装されてもよい(ここで、前記コンピュータプログラムは、コンピュータシステム上で実行される場合に本発明による方法のステップを実行するためのコード部分、または本発明に従って汎用コンピュータシステムがフィルタ装置の機能を実行できるようにするためのコード部分を少なくとも含む)。かかるコンピュータプログラムは、コンピュータシステムのメモリ内にロード可能なデータが格納された、CD-ROMやディスクなどのデータキャリア上で提供されてもよい(ここで、前記データはコンピュータプログラムを表す)。前記データキャリアは、さらに、本発明によるコンピュータプログラムを表す信号を伝送する、電話線やワイヤレス接続などのデータ接続を含んでいてもよい。

40

50

【0031】

上述の実施形態は、本発明を制限するものではなく、むしろ説明するものであり、当業者は、添付の特許請求の範囲から逸脱することなく代替の実施形態を設計できることに留意する必要がある。

【0032】

特許請求の範囲において、括弧の間に配置されたいかなる参照記号も、特許請求の範囲を制限するものと解釈されてはならない。「具備する、備えた、含む (comprise)」という言葉は、特許請求の範囲内に示されていない要素やステップの存在を除外するものではない。単数であるか複数であるかについて明確に言及していない場合は、「1つまたは複数 (one or more)」あるいは「少なくとも1つ (at least one)」を意味する。

10

【図面の簡単な説明】

【0033】

【図1】本発明によるコンピュータシステムの実施形態の例を示す。

【符号の説明】

【0034】

1 コンピュータシステム

100 ユーザインタフェース (UI)

101 サブインタフェース「統合作業リスト」

102 サブインタフェース「進行中の作業の追跡」

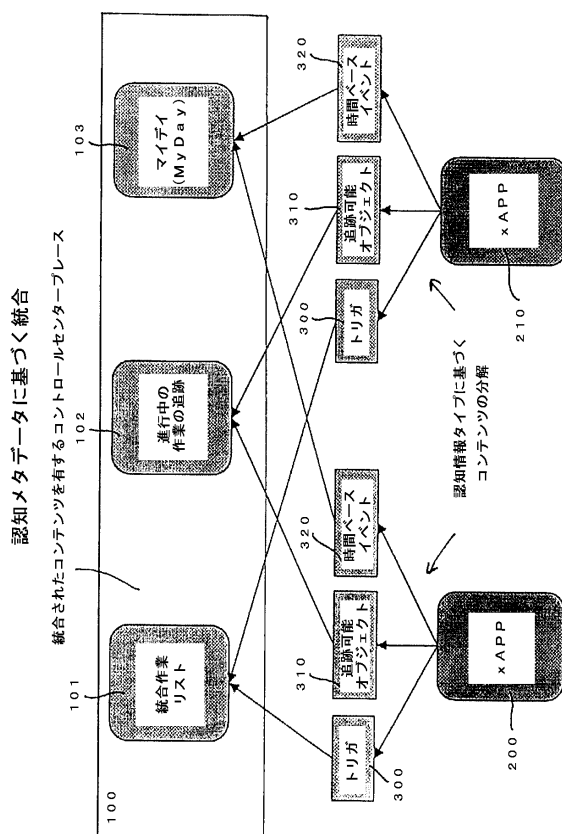
103 サブインタフェース「マイデイ (My Day)」

200、210 2つのコンピュータアプリケーションまたはコンピュータプログラム
'xAPP'

20

300、310、320 分類装置

【図1】



フロントページの続き

(74)代理人 100110364

弁理士 実広 信哉

(72)発明者 ジョエルグ ベリンゲル

ドイツ、60431 フランクフルト、ウィルデンプルクストラッセ 49

審査官 円子 英紀

(56)参考文献 特開平09-147013 (JP, A)

特開2002-259642 (JP, A)

特開平11-143743 (JP, A)

篠塚 克利, Review LinkmaxES 3. 1, JAVA Developer No. 12, ソフトバンク パブリッシング株式会社, 2003年 7月 1日, p.26-27

桑原 義幸, E I Iとはどんなもの?! 企業における「情報統合技術」最新事情, WEB+DB PRESS Vol. 16, 株式会社技術評論社, 2003年 8月28日, 第1版, p.155-162

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

G06F 3/048

G06F 3/14